

「第11回 日本体験コンテストin大韓民国」 入賞者（5名）企画実施報告

昨年9月に実施した「第11回日本体験コンテストin大韓民国」の入賞者5名が2009年3月31日までに各自の企画を実現する為に来日し、それぞれの体験を経て無事帰国しました。その報告書ができあがりましたので内容を一部抜粋して報告いたします。尚、詳しい内容は当財団出版物「アジア文流 Vol.26」に掲載予定です。（7月発行予定）

テーマ:「日本で実現したい夢」

軍英賞（慶熙大学 東アジア語学部 日本語学科 4年）

企画テーマ: 「11*18 の中の日本」ー日本のマンガ、それからそのマンガでみられるグルメ世界

企画実施日: 2009年2月6日～14日

活動内容: 手塚治虫記念館、ジブリ博物館、マンガ喫茶、まんだらけ見学、マンガ内に登場するレストラン訪問等

主な訪問場所: 京都府宝塚市、東京(三鷹市、秋葉原)



ブックオフにて

金 恵榮（仁荷大学 国際通商学部）

企画テーマ: 「花より男子？花より団子！」

企画実施日: 2009年2月3日～10日

活動内容: 和菓子作り、団子作り体験、京菓子資料館見学

主な訪問場所: 山口県、京都府



和菓子作り体験

李 承桓（韓國外國語大学校 東洋語大学 中国語科）

企画テーマ: 「時代の流れまで止めさせた伝統～相撲」

企画実施日: 2009年3月16日～27日

活動内容: 日本相撲協会インタビュー、国士館、相撲部屋見学、大相撲観戦(大阪場所)、引退力士訪問

主な訪問場所: 東京都墨田区、大阪府



相撲観戦（大阪場所）

金 珠英（慶尚大学校 経済学科）

企画テーマ: 「人々を魅了するその美しさ」

企画実施日: 2008年12月24日～2009年1月6日

活動内容: 文化学園服飾博物館、青梅きもの博物館、江戸東京博物館、浅草見学、着付けレッスン

主な訪問場所: 東京都(浅草、青梅市)



長沼静着物学院(東京)

李 鐘碩（成均館大学 社会学部 政治外交学科）

企画テーマ: 「「多文化共生教育の現場に行こう」

企画実施日: 2009年1月27日～2月9日

活動内容: 新宿大久保小学校(教師、生徒インタビュー)、新宿多文化共生プラザ、川崎市ふれあい館、大韓東京教会、東京多文化フリースクール訪問

主な訪問場所: 東京都(新宿区)、神奈川県(川崎市、横浜市)



新宿区立大久保小学校

入賞者実施報告文(一部抜粋)

※学生の手稿をそのまま載せています。

① 車 英實 (チャ ヨンシル) 慶熙大学東アジア語学部 日本語学科

私が今回訪れた場所を除いても日本のところどころにたくさんの漫画関連の博物館や図書館などがある。日本に行く前に調査したときも驚いたことだが日程を終えた今、その漫画に対する熱意に驚いた。日本人にとってマンガというのがただの余暇の楽しみ方の一種だけではなく、生活の中に深く入っている。だからマンガをドラマ化しても映画化してもキャラクターを作っても売れるのだ。厳しくいうと金儲けになるともいえる。ここ数年、海外では日本のアニメーションが非常に高く評価されており、特に子供や若者に大人気である。今回訪れたジブリスタジオの『千と千尋の神隠し』が海外で公開されてから、宮崎駿監督、あるいは彼の作品に海外から多くの関心が寄せられた。2004 年公開された『ハウルの動く城』も翌年の 2005 年にフランスで公開された。ジブリスタジオの作品だけでなく色々な作品がこのように、日本のアニメーションが海外から注目を浴びるよう外なっているものは、魅力となっているものは何なのか？について少し分かった気がする。日本はアニメの視聴率が世界一高い数字を記録していてマンガの販売数も一番高いといわれるぐらいだ。マンガ産業を支えてくれる人、日本のマンガを世界に誇れる文化とさせた人、その力でマンガが成長してきた。それから、お金をためてマンガを買いに来る人やアニメの美術館が家族単位で楽しめる場所となっていることが日本マンガの、アニメの力ではないかと思う。こういう人たちがいる限りまた日本マンガは発展し、世界的に愛されると思う。今回の旅行を終えた今もっと深くマンガについて知り、日本文化に触れた気がする。またこの貴重な経験を可能にさせていただいた関係者の皆様に厚く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

② 金 恵榮 (キム ヘヨン) 仁荷大学 国際通商学部

「みたらし団子作り」

今回の和菓子作りの中で一番の楽しみはみたらし団子だった。なぜなら、京都の街を歩いたら、あちこちで、みたらし団子を焼いて売っている和菓子屋をよく見かけて、その姿がすごく楽しそうに見えたからだ。和菓子作り教室に行ったら、竹串や焼く道具などがあり、私も街の和菓子屋の人のように焼けると思ったら、すごく楽しくなってきた。作る前に先生からみたらし団子について簡単な説明をしていた。みたらし団子は、古来、無病息災を願い、主には京都の下鴨神社の葵祭や御手洗祭などの時に氏子の家庭などで作られ、神に供えるお菓子が始まりだった。5 個の団子が串に通されており、先端に離れた 1 個の団子が頭を表し、他の 4 個は手足で人体を現している。みたらし団子を最初に見た時、形がすごく可愛いらしいと思ったが、実は人体の表すということを知り、本当にそのように思われた。みたらし団子は上新粉に熱湯を入れ、まぜた後小さくて丸い団子を作り、蒸して、竹串に 1 個を通し、少しあけて 4 個をさした。そして焼き網にのせ、回しながら、全体に焦げ目をつけ、外がガリッとする程度までよく焼いた。その後、みたらし団子の核になるたれを作った。たれには砂糖、醤油、みりん、片栗粉を鍋に入れ、火をつけてとろみが付くまで混ぜたら完成。そして焼いた団子にたれをつけたらおいしいみたらし団子ができあがった。

③ 李 承桓 (イ スンファン) 韓國外國語大学校 東洋語大学 中國語科

元々は相撲部屋の生活を調査し相撲体験などもして見るつもりだったが、実際には国技館の近くのある相撲部屋でやっと話を聞くことができた。探訪当時すべての相撲部屋が大阪に発った時期だったからである。相撲部屋では共同生活をしているので「新参」の力士と言っても基本的な生活には問題が無いという。生活費も支給されるがほとんど小遣いくらいだそうだ。当然上に上がるほど収入も上がるが、そうではなくても自らが相撲がすきで選択した道だから不満はないと話した。大阪で直接力士とのインタビューをしようとしたが、どうやら競技が開かれている期間なので残念ながら次の機会を探すしかなかった。相撲協会に引退力士の生活について問うと、すべての力士が相撲関係の仕事をするとはできないと答えた。しかし、たいていアマチュア道場に就職するなど相撲関係の仕事に従事する場合が多いようだ。その中、特別に実力のある力士は自分の道場を開いて親方になる場合もあるが、協会で道場を開くのにまでサポートはしてないが、一応開設しそれがある程度の条件を満足すれば、維持管理費や月給を提供すると教えてくれた。

④ 金 珠英（キム ジュヨン）慶尚大学校 経済学科

正月休みも終わり、私は紹介して頂いた美容室へ着物を着る前に髪の設定もしてもらいました。着物を着るときは髪をアップにし、うなじ（首の後ろから背中にかけての部分）が見えるのが美しいと言われていました。恥ずかしながらも美容室を終え、着物教室へ向かいました。講習が始まり、まずは姿勢。立ち方、歩き方、屈む時（かがむとき）・座るときなどについて。又、着物の中には下着のみなので、小さい小物類の名称や身につけ方などを習いました。練習時間をもらい皆で揃って自分たちの手でやってみましたが、結果は上手くいかず。上手くいくはずがない！と先生に笑い飛ばされました。そしていよいよ本番。今度は先生に手伝って頂きながら自分でも挑戦する事一時間…。綺麗に着ることができました。けれど、こんなに窮屈だとは思ってもいなかったです…。想像以上に胸やお腹は苦しい。歩きにくい。屈むなんて無理でした。しかし時間と共に慣れていきました。講習終了後、何人かの生徒たちと下町でありながら、観光客で大変賑わいを見せている町、浅草に立ち寄る事にしました。

⑤ 李 鐘碩（イ ジョンソク）成均館大学 社会学部 政治外交学科

今回の調査を通じて韓国と日本の多文化主義の類似性と違いを比較してみることができた。韓国と日本はそれぞれ抱えている問題点は同じような面があるが違う面もたしかに存在する。韓国では宮主導の多文化主義でいわば「トップダウン」式国家の大規模支援に依存した多文化主義政策である。韓国では制度的あるいは財政的支援は多いがその意図するところや認識の方向ではまだ同化主義に近い。一方、日本では地域の小さな団体から始まる下からの多文化主義である。日本は意図や方向性では肯定的にみることができるが制度的、財政的な支援はない実情である。また、韓国と日本では多文化社会を理解するときの問題点が違う。韓国では結婚移住者や移住労働者の問題が大部分であるのに比べ日本では古くから住んでいる在日韓国朝鮮人、日経ブラジル人を初め流入してきたニューカマーの背景が違う。似ている点は韓国も日本も子どもたちの学校で問題、進学に対する制度的問題、家庭と学校での言語や文化の解離から来るアイデンティティーの問題などがある。